

2016年10月31日掲載

歯以外由来の痛み
心筋梗塞の可能性も

歯が痛むときに最初に疑われるのが、むし歯、歯の神経に炎症が起こる歯髄炎、歯冠や歯根のひび割れ（歯の破折）など、歯に原因がある場合です。しかし、歯科医院で視診、触診、エックス線検査などを実施しても歯には異常が見つからないことがあります。このように歯以外に原因のある歯の痛みを「非歯原性歯痛」といいます。

非歯原性歯痛は、大きく次のように分けられます。関連痛によるもの、心因性のもの、原因不明のもので、今回は関連痛についてお話をします。関連痛とは、「痛みの原因が生じた部位と異なる神経支配領域に感じられる痛み」と定義され、痛みの発生源＝疼痛（とうつう）発生源＝としては、顎を動かす筋肉、内臓（心臓など）、鼻腔（びくう）、関節などがあります。

そのメカニズムには諸説があり、いまだに十分に解明されている訳ではありませんが、脊髄のニューロンが関連しているといわれています。

奥歯が痛いのに、歯科医院で「特に問題はありません」と言われたことがありますか？ 心筋梗塞は必ずしも胸に痛みがある訳ではありませんので、原因不明の歯痛が続いたら心筋梗塞の可能性もあります。

息苦しくなったり、疲れやすかったりして、歯に痛みがある場合は循環器科との連携が必要になりますので、このような症状に身に覚えのある方は、かかりつけの歯科医院と相談してみてください。